

5 月医療安全ニュース

2020 年 5 月 20 日 あおもり協立病院 医療安全管理室

いつもインシデント入力して頂き有難うございます。

今回のテーマは・・・

「注射・採血時の神経損傷」

事例番号 168 番（健診科での採血場面）

「左腕正中より採血実施。血管に入らなかったため針を動かした。すると患者より「痛い！」と声が上がったため、直ぐに針を抜去した。腫れ・採血部位の変色（-）。健診科医師に診察してもらおうと神経にぶつかったかもしれないと判断。診察終了後、別の看護師が採血すると痛みも無く無事に終了となった」

注意：注射・採血等による行為での偶発症は適切な対応がなされないと医療事故として訴訟になるケースがあります。

では、適切な対応とはどのような動きでしょうか？
当院の医療安全マニュアルでは、

1) 注射時、痛み・しびれを訴えた場合

- (1) 駆血帯をゆるめ、直ちに針を抜く。
- (2) 疼痛・しびれの部位・有無を確認する。

2) 抜針後 10～30 分経過後も痛み・しびれをきたす場合

- (1) 医師（主治医もしくは救急担当医）に連絡するとともに、局所の安静と保温を保つ。
- (2) 医師は、穿刺部位、痛み・しびれの部位・程度を診察・記録する。
- (3) 医師は、注射時に発生する神経損傷について説明する。

3) 経過観察（帰宅）後も痛み・しびれをきたす場合

帰宅後に痛みやしびれが消失しない場合は病院に連絡するように説明をする。

患者に必ず来院するように伝える。

- * 時間内は主治医へ（診療スケジュール参照しクリニック外来へ誘導）
- * 時間外は救急外来へ

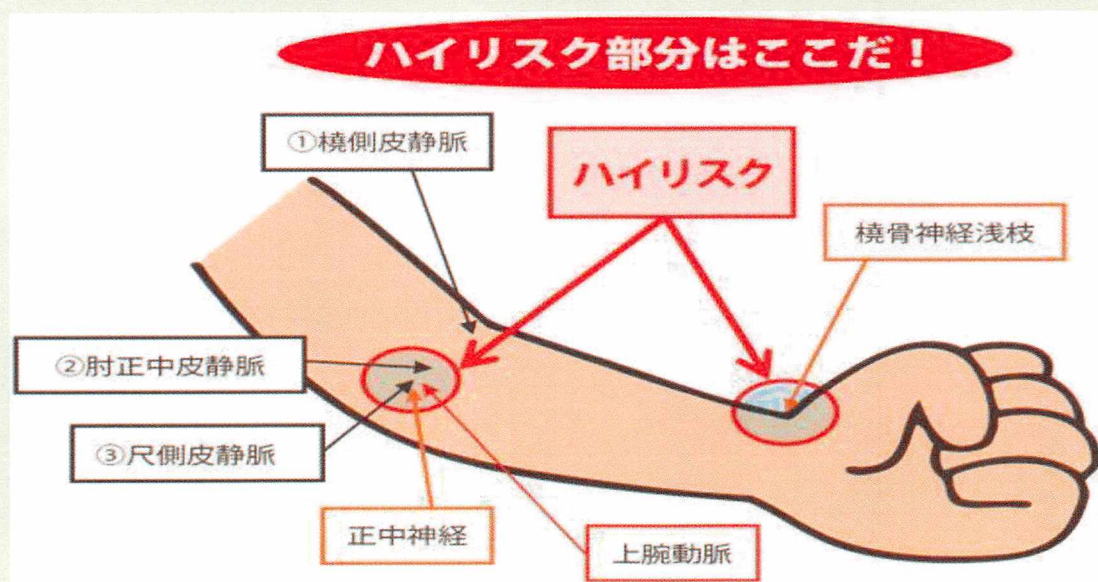
となっています。上記の事例では

①抜針した②外来医師の診察を受けた

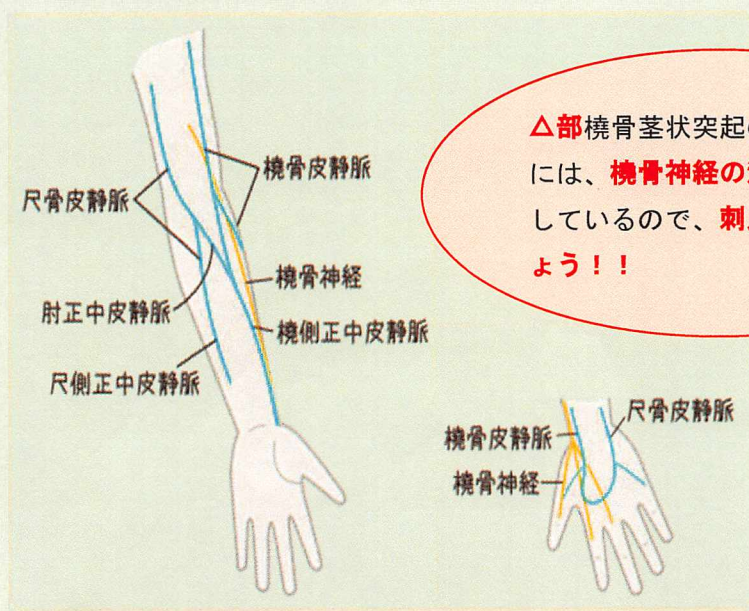
という流れでしたので適切に対応できたと思います。

* 次のページでは神経損傷が起こりうる部位を紹介いたします。

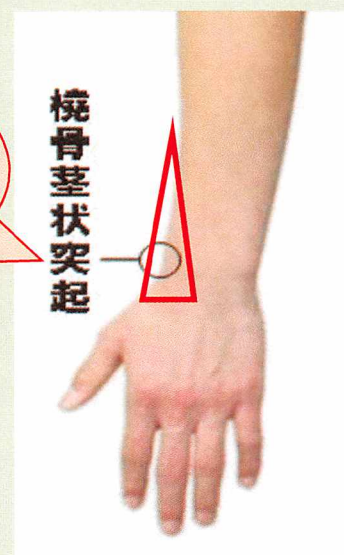
注射・採血時の神経損傷を起こしやすい部位
(正中より内側と親指側にリスクがある)



血管と神経走行 (青：静脈 黄：神経)



△部 橈骨茎状突起の付近の静脈
には、**橈骨神経の浅い枝**が走行
しているので、**刺入を避けま**
しょう！！



患者を守るため・自分たちを守るためにも、

1. 神経走行している部位の採血・注射は避ける

2. 強い痛みを訴えたら速やかに抜針！

3. 10～30分しても痛みが緩和しない場合は医師の診察を受ける

確認！

